

視点1

ライオンに『なる』ことを楽しむYの探求

木下育子
(幼稚園教諭)

私が勤務する奈良県大和郡山市の保育には、一人ひとりの子どもの表現を大切にするといい文化があります。Yと共に過ごした幼稚園でも、子どもが心を動かしたものに『なる』ことを楽しむ姿が見られました。

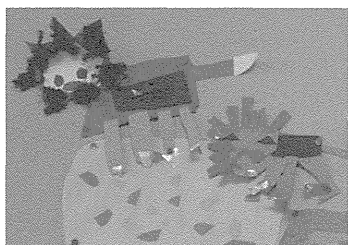
四月、Yは五歳児クラスに転入してきました。新しい環境への不安が強く、泣いて保護者と離れられない日が続きました。五月、子どもたちから広がったお化け屋敷作りで、お化けタクシーを作り、三歳児や四歳児をお化け屋敷まで誘導することを考え出したY。友達からも認められて、好きな遊びを楽しみ、生き生きと生活するようになりました。

遠足でライオンに出会い、

ライオンが好きになるY

六月。Yは、動物園への遠足後、ライオンの絵を絵の具で楽しそうに描きました。

ライオンのタテガミを毛糸で工夫して製作したYは、ライオンが寝転ぶ大きな岩も作り、ライオンが暮らす世界を表現していきました。



▲Y製作ライオン (左)

木下育子(きのしたいくこ)
大和郡山市立郡山北幼稚園勤務。子どもの遊びの楽しさや発想の面白さに魅了されています。

筒との出会いで、

迫力あるライオンの声に気付くY

Yは、筒を口に当てて、声を出すと、迫力のあるライオンの声になることに気付きました。

「ウォー ウォー」と筒を口に当てて、目を輝かせるY。Yと共に私も筒を口に当てて声を出すと、迫力満点のライオンになることができ、気分爽快でした。Yの筒は園内中に広がり、みんなが筒を口に当てて、ライオンになることを始めました。次第に、長い筒や短い筒を口に当てて声の違いを試したり、筒を使ったときと使わなかったときとで声の出方の違いを比べたりして、ライオンの吠え方を探求していききました。

Yはお気に入りの筒に布テープを貼り、自分専用の筒を作りました。Yのライオンになる遊びは、この筒という「モノ」との出会いから生まれました。Yにとって筒は、自分でない、ライオンになるための必須アイテムで

あったと思われ
ます。筒がある
ことで、憧れの

強いライオンに

なれたY。筒は、

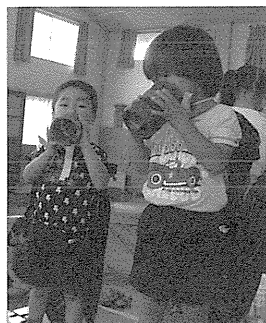
ライオンになる

Yが周りの友達

と遊びを楽しむために使われ、筒を通して遊びが深まっていききました。

ライオンになるYの探求

Yは、ライオンが座ったり寝転んだりできる大きな岩を、段ボールに布テープを貼って数日間かけて丁寧に作りました。何度も上に乗っては安定感を確かめ、頑丈な岩を作ると、檻わおで場を囲みました。岩の上に乗る、ライオンになるY。岩のそばには自分専用の筒を置き、ライオンを見に来た三歳児や四歳児に、鋭い目つきで真剣に吠えます。怖がる友達の姿から、強いライオンになることができ



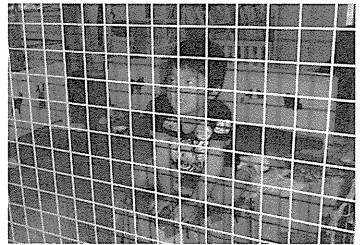
▲こっそりYの筒を使う
3歳児

る自分を感じたYは、次第に、筒を使わずに自分の生声で吠え、見に来た友達を威嚇するようになりました。筒に頼らずに、自信を持ってライオンになるY。

四歳児の中には、Yのライオンに憧れて、「入れて」と言う子もいました。Yは「いいよ」と優しく応え、一緒にライオンになることを楽しみました。その後、Yのライオンになる遊びは、幼稚園内に広がり、それぞれの子どもが自分のライオンになる探求を楽しみました。

生活発表会の劇『エルマーのぼうけん』でライオンになるY

二月の生活発表会で、大好きな物語『エルマーのぼうけん』の劇をすると決めた子どもたち。Yは、やはり物語に登場するライオン



が好きで、ライオンになることを楽しんでいました。劇の役割を決めるとき、クラスの子どもたちは「Y君、ライオンになることをずっとしてきたから」と、Yにライオンの役を勧めました。Yは考えた末、「やってみよう。ライオンになる」と応え、ライオンの役を引き受けました。クラスでは友達の前に進んで出るとは少ないYですが、挑戦したい気持ちが生まれ、役を引き受けたものと思われしました。劇遊びを楽しんでいく中で、Yのなるライオンは、日増しに迫力を増していきました。「Y君のライオン、大きな声で吠えて、すごいな」という友達の声に、自信を持つY。

生活発表会当日に

は、物語『エルマーのぼうけん』のライオンの特徴を捉えて、なる。ことを楽しむYの生き生きとした姿が



▲作ったタテガミを持ってライオンになるY

ありました。ライオンを探求してきたことが活かされたのです。

修了式でみんなに伝えたいことを考えるY

幼稚園では、園長先生から修了証書をもらうときに、幼稚園で楽しかったことや、伝えたいことを考えて、修了式で語ることになっています。練習でYは「ライオンになったこと。ライオンになって吠えていたら、強くなった」と、胸を張り、答えました。このとき私は、堂々と語るYの言葉に感動して、胸が熱くなりました。「Y君が強く大きくなったのね。うれしいね」と伝えると、Yは満足そうでした。修了式の当日には、「ライオンになって吠えていたら、僕も強くなりました」と大きな声で話し、園長先生から堂々と修了証書もらおうYの姿が見られました。

ライオンになるYの姿から探求を考える

自分でない、ライオンになることで、Yは、

見えないものが見えたり、できないことができたりし、無限の未知の世界を探訪していききました。ライオンになるYを見つめる友達からの言葉や認めは、Y自身が、自分の良さや、自分と友達との違いに気付くことにつながりました。本来の自分と、ライオンになる自分とを行きつ戻りつする中で、憧れの自分（強い自分など）や、自分の中にある潜在的なもの（泣いてしまう自分など）に気付き、自分を客観的に見つめ、自分と向き合っていたのではないかと思われれます。Yは、自分の中にある新しい自分を発見し、自らを成長させていきました。

なることを楽しむ中での子どもの探求は、自分探しの旅なのではと思われれます。一人ひとりの子どもが心を動かしながらなるプロセスに丁寧に向き合い、子どもと共に探求し続ける喜びを感じていきたいと思えます。